

仙台大豆作情報

令和6年度第1号
令和6年5月17日発行
仙台農業改良普及センター
TEL 022-275-8410

★基本技術を確実に実施して
収量 300kg/10a・品質 1 等級を目指しましょう！

◎今回の大豆栽培管理のポイント

- ① 排水対策 ② 土づくり ③ 施肥（基肥） ④ 適期播種 ⑤ 雑草防除（土壌処理）

1 排水対策

大豆は湿害に弱く、発芽期までに急激な吸水を受けたり酸欠状態となると出芽が阻害され、発芽しても生育不良株となります。また、湿害により根粒菌の着生が阻害される恐れもあるので、安定した収量を確保するために、排水対策は必ず実施しましょう。

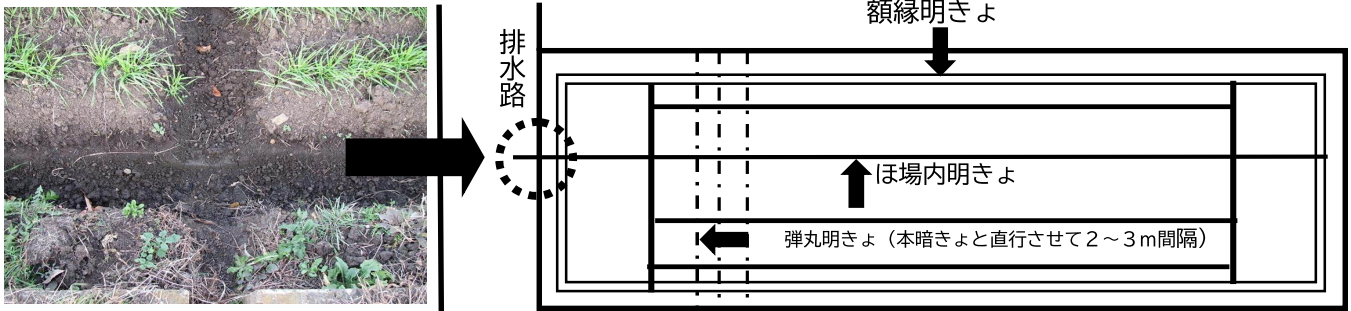
(1) 額縁及びほ場内明きよの設置

明きよの幅及び深さは 20～30 cm 程度とし、畦畔に沿って額縁明きよを設けましょう。ほ場内明きよは、水口から水尻まで傾斜がない場合は間隔を 5 m 以内とします。

(2) 明きよと排水路の接続

明きよは必ず排水路と接続し、停滞水の排水を促します。まもなく梅雨の時期に入りますので、降雨後は、ほ場を見回り、明きよの崩れがないか確認しましょう。

★接続部分★



2 土づくり

(1) 有機物の施用

堆肥などの有機物は土壌の物理性改善、微生物増殖などの働きのほか、根粒菌の着生・活動に良い効果を示します。牛ふん堆肥（窒素含有率 1% 程度）で 10a 当たり 1 t 以内を目安に散布しましょう。

(2) 酸度矯正

水田土壌は pH 5.0～5.5 の酸性であることが多いので、pH 6.0～6.5 を目安に苦土石灰等の石灰資材を用いて酸度矯正しましょう。

(3) 耕うん（耕起・砕土）

砕土の良否は覆土の精度と種子への水分の供給に影響し、土塊が大きいと種子の過乾燥による出芽不良、播種深度のムラによる出芽の不揃い、除草剤の効果の低下につながります。

砕土の程度としては、直径 2 cm 以下の土塊が作土における比率 70% 以上、地表面には

3 cm 以上の土塊が混ざらないようにしましょう。

なお、耕起・整地から播種までの期間が長くなると土壌が乾燥し、出芽率や土壌処理剤の効果が低下しやすくなるので計画的に作業しましょう。

3 施肥（基肥）

根粒菌による窒素固定は発芽後 2 週間ぐらいから始まります。その間は施肥による窒素の供給が必要です。根粒菌は土壌中の窒素濃度が高いと着生が阻害されるので、基肥窒素は大豆の初期生育を確保できる量としましょう。

標準基肥量（成分量/10a）

栽培様式	窒素	リン酸	加里	備考
普通播栽培 晩播栽培	1.5～2kg	5～6kg	6～8kg	水田転作初年目のほ場や、野菜作の後作で蔓化が懸念される場合は無窒素とし、リン酸、加里のみ施用。
晩播栽培(麦後)	2～3	6～9	8～12	麦稈をすき込む場合の成分量

4 適期播種

（1）種子の消毒

種子伝染性病害である紫斑病や初期害虫の防除、鳥害忌避のため、必ず種子消毒を行います。特にタンレイは、県内で栽培されている品種の中では紫斑病に弱く、管内でも発生が目立ちます。「クルーザーMAXX」などの薬剤で種子消毒を徹底しましょう。

（2）播種

品種の特性に合わせて適期に播種します。作付面積が大きい法人や生産組織においては、播種作業が梅雨時期に重なることもあります。種子消毒や播種機の点検など播種準備を計画的に行い、天気予報にも留意しつつ適期になったらすぐに播種できるようにしましょう。

播種期・播種量の目安

品種名	栽培様式	播種期	播種量 (kg/10a)	播種様式	
				畦間 (cm)	株間 (cm)
タンレイ	普通播	5/下～6/上	4.3～4.5	75～80	20
	晩播	6/中	8.8	75	10
ミヤギシロメ	普通播	5/下～6/上	4.2～4.6	75～80	20～25
タチナガハ	普通播		3.8～5.1	75～80	20～25
すずほのか	晩播	6/下～7/上	1.6～2.8	65～75	10～15
すずみのり	標播	5/下～6/上	3.6～4.8	75～80	20～25

◎ミヤギシロメの蔓化・倒伏対策

ミヤギシロメは草姿が他の優良品種と異なり、分枝が横に広がるラケット型のため、蔓化・倒伏しやすい品種です。施肥量・栽植密度が多くなるに伴い蔓化・倒伏の程度が高まりますが、特に栽植密度に対する反応が大きくなります。対策としては、**畦間・株間を基準どおりとし栽植密度をあげない**ことがポイントとなります。

（3）播種深

出芽に適した播種深は 3～4 cm です。浅すぎると鳥害の恐れがあり、反対に深すぎると出芽、苗立ち率が低下することがあります。また、発芽に必要な水分を保持するために、覆土はしっかりと行いましょう。

(4) 畝立て播種

畝の高さは10～20cm程度とします。畝間が通水路となり、地表面の排水を促します。

5 雑草防除（土壌処理）

雑草防除の良否は収量に大きく影響し、コンバイン収穫時に雑草が残っていると汚粒の原因となります。このため、土壌処理剤と中耕培土、茎葉処理剤を組み合わせることで除草することが大切です。播種後に散布する土壌処理剤については、以下のポイントを理解して散布しましょう。

◎土壌処理剤のポイント

- ・碎土不良では除草効果が劣るので、前述した碎土を丁寧に行います。
- ・発生後の雑草には効果が期待できないので播種直後に散布し、遅くとも播種後2～3日以内に使用します。
- ・耕起・整地から播種までの期間が長くなると土壌が乾燥するため、除草剤が土壌表面に拡散されず、効果が低下したりムラが出ます。作業は計画的に行いましょう。

◎難防除雑草アレチウリ・帰化アサガオ類の防除対策

アレチウリ・帰化アサガオ類のほ場侵入が拡大しています。アレチウリは、防除効果が比較的高い土壌処理剤に「フルミオ WDG」または「ダイロンゾル」があり、処理1か月後のアレチウリ残草量を無処理対比で数%～40%程度に抑制できます。帰化アサガオ類に対して防除効果の高い土壌処理剤は、「フルミオ WDG」です。

フルミオ WDG の散布にあたっては、土壌表面の碎土率を高め、適度に土壌が湿っている条件で処理すると効果的です。

毎年発生の多いほ場は、茎葉処理散布、中耕除草を組み合わせることで防除しましょう。

※今回の「仙台大豆作情報」に記載した農薬は令和6年5月15日現在の内容です。使用する際は農薬ラベルで登録内容を確認してください。

■農薬の適正使用について

- ・ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用しましょう。
- ・農薬使用の際に飛散防止対策を講じましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。

■令和6年春の農作業安全確認運動実施中（令和6年3月1日から令和6年6月30日まで） 運動スローガン 「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

- ◆安全フレームを必ずたてる。→転落・転倒時に安全域にとどまれる確率が高い！
- ◆シートベルト、ヘルメットを着用する。→シートベルト着用で死亡事故の発生を低減。
- ◆ほ場周辺の危険箇所の確認・改善と危険回避行動を！→可能な場合は危険箇所を明示。
- ◆危険個所では減速・迂回を！

■大豆優良品種「すずみのり」（宮城県「普及に移す技術」第97号より）

大豆品種「すずみのり」は加工適正が低い「タチナガハ」に代替できる品種として令和4年に県の大豆優良品種になっています。長所としては①最下着莢高が高く、コンバイン収穫に適する、②難裂莢性で標播では「タチナガハ」より多収である、③蛋白質含有率が高く、豆腐や味噌等の加工適性が高いことがあげられます。

次回「仙台大豆作情報第2号」の発行は、6月中旬を予定しています。